

1 この科目の構成について

教科	地理歴史科	科目	地理総合			単位	2	単位
対象コース	一貫、進学、総合、美術	コース	対象クラス	1	年	1～7組		
使用教科書	新地理総合（帝国書院）新詳高等地図（帝国書院）							
使用副教材	新地理総合ノート							

2 この科目の目標・学習内容・学習方法について

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

私たちの生活圏には、多岐にわたる地理的な課題がみられる。生活圏が抱える課題を探究するためには、どのような方法で地域の特徴をとらえ、どのように課題解決のための展望を見いだしていけばよいのだろうか。

- （１） 地図、地理情報、地域調査の学習を通して、地図の活用法、地域や世界の諸事象を理解する力や課題の発見力を身に付けて下さい。
- （２） 地形や気候の学習を通して、自然と人間の関わりを理解し、各地域の人間生活の基盤を形成しているものへの理解を深めて下さい。
- （３） 日本の自然や環境問題の学習を通して、自然災害を理解するとともに防災意識を高め、環境問題に対する関心を高めて下さい。
- （４） 世界や日本の農林水産業の学習を通して、自然と農林水産業の関わりを理解するだけでなく、食糧問題にも関心を深めて下さい。

学習内容：この科目で学習する大まかな内容

- （１） 地理情報の活用方法、世界観の変化、地球上の位置、時差、世界図の図法・種類、一般図と主題図、地域調査について学習します。
- （２） 地形の種類・成因・分布、陸水と海洋、大気循環、雨温図とハイサーグラフ、世界の気候区分・植生・土壌について学習します。
- （３） 日本の地形・気候、自然災害と防災、オゾン層の破壊・地球温暖化・森林破壊・砂漠化・酸性雨等の環境問題について学習します。
- （４） 世界の農業地域区分、自給的農業・商業的農業・企業的農業の種類、世界の林業・水産業、日本の農林水産業について学習します。

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1) 学校

- （１） 地理情報の活用方法、世界観の変化、地球上の位置、時差、世界図の図法・種類、一般図と主題図、地域調査について学習します。
- （２） 地形の種類・成因・分布、陸水と海洋、大気循環、雨温図とハイサーグラフ、世界の気候区分・植生・土壌について学習します。
- （３） 日本の地形・気候、自然災害と防災、オゾン層の破壊・地球温暖化・森林破壊・砂漠化・酸性雨等の環境問題について学習します。
- （４） 世界の農業地域区分、自給的農業・商業的農業・企業的農業の種類、世界の林業・水産業、日本の農林水産業について学習します。さまざまな考えを深めるようにしましょう。

(2) 家庭

- ① 復習は必要です。授業で理解できなかった用語や内容はその日のうちに教科書などで確認しておきましょう。
- ② 新聞やテレビのニュースを必ず見ましょう。問題を解く際に力強い味方になります。常識で解ける問題もあります。
- ③ 模試の見直しの際、模範解答の解説書を熟読し、「正解の根拠・地図や統計読解のテクニック」を理解し覚えましょう。

3 この科目の評価の観点について

評価の観点：何を使って評価するのか

(1) 知識・技能

- ① 定期考査：年５回の定期考査。
- ② 授業への取り組み：指名されたときの発表内容など。
- ③ 提出物：振り返りシートや課題プリント、テスト直しの内容など。

(2) 思考・判断・表現

- ① 定期考査：年５回の定期考査。
- ② 授業への取り組み：指名されたときの発表内容など。
- ③ 提出物：マイノートや振り返りシートの内容など。

(3) 主体的に学習に取り組む態度

- ① 授業への取り組み：授業態度や指名されたときの発表内容など。対話型の授業のため、積極的に協同作業をしているかどうか。
- ② 提出物：総合ノート、課題プリントやテスト直しの内容など。

4 この科目の学習計画について

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CHECK
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○△×
1	4	はじめに 第1部 さまざまな地図と地理的技能 第1章 地理情報と地図 第1節 地図の発達 1. 現代の地図 2. 世界観の変化と地図 第2節 地図の種類とその利用 1. 地球上の位置 2. 時差の求め方 技能1 時差の計算 3. 地球儀とさまざまな地図 第3節 地理情報の地図化 1. 地理情報とは何か 2. 一般図と主題図 3. いろいろな統計地図	○ 地理学を学ぶ意味・地理学の構成等を学びます。 ○ リモートセンシング・GNSS・GIS等を学びます。 ○ ブトレマイオスの世界地図・TOMAP等を学びます。 ○ 経度・緯度・本初子午線・地球の大きさ等を学びます。 ○ GMT・日付変更線・標準時・サマータイム等を学びます ○ 時差の計算を行います。 ○ 正角図法（メルカトル図法・等角航路等）等を学びます。 ○ 正方位図法（正距方位図法・大圏航路等）等を学びます。 ○ 正積図法（サンソン図法・モルワイデ図法等）等を学びます。 ○ 地理情報とは何かを学びます。 ○ 地理情報・一般図・主題図・地形図・統計地図等を学びます。 ○ 絶対分布図（ドットマップ・図形表現図等）を学びます。 ○ 相対分布図（階級区分図等）を学びます。 ○ カルトグラム・メッシュマップ等を学びます。 ○ 統計地図の作成を行います。 ■ 第1回定期考査	●	●	●	●	
	5	技能2 統計地図の読み方と作り方 第2章 地図の活用と地域調査 第1節 地図の活用 1. 地形図の利用 2. 地形図のデジタル化 技能3 空中写真の利用 技能4 地形図の利用—地図記号 第2節 身近な地域の調査 1. 調査テーマの設定 2. 課題の調査 3. 調査結果のまとめと発表 第II部 現代世界の系統地理的考察 第1章 自然環境 第1節 世界の地形 1. 地形の成因 (1) 内的営力と外的営力 2. 地球規模の大地形 (1) 大地形の分布 (2) プレート運動と様々な境界 (3) 火山と地震の活動 (4) 造山帯と安定陸塊 3. 河川と海岸の小地形 (1) 小地形の形成と河川地形	○ 地形図・実測図・UTM図法・編集図等を学びます。 ○ 電子国土基本図・電子地形図25000等を学びます。 ○ 空中写真とは・空中写真の実体視等を学びます。 ○ 縮尺・三角点・水準点・図式・地図記号等について学びます。  ○ 地域調査の手順等を学びます。 ○ 野外調査・予備調査・文献調査等を学びます。 ○ 聞き取り調査・観察調査・一次資料・補充調査等を学びます。 ○ ポスター・レポート・プレゼンテーション等を学びます。 ○ 地殻変動・内的営力・外的営力・風化・浸食等を学びます。 ○ 大地形・大陸・大洋・平野・山脈等を学びます。 ○ 大陸棚・深海平原・海嶺・海溝などを学びます。 ○ ウェゲナー・大陸移動説・プレートテクトニクス等を学びます。 ○ 狭まる境界・広がる境界・ずれる境界等を学びます。 ○ 海洋プレート・大陸プレート・褶曲山脈・島弧等を学びます。 ○ サンアンドレアス断層・北アナトリア断層等を学びます。 ○ マグマ・溶岩台地・カルデラ・火山灰・火砕流等を学びます。 ○ 地熱発電・ニュージーランド・アイスランド等を学びます。 ○ 地震・活断層・海溝型地震・津波・直下型地震等を学びます。 ○ 造山帯・造山運動・新期造山帯・古期造山帯等を学びます。 ○ アルプス＝ヒマラヤ造山帯・環太平洋造山帯等を学びます。 ○ 安定陸塊・卓状地・ケスタ・構造平野等を学びます。 ○ 楕状地・準平原・デーヴィス・侵食輪廻等を学びます。 ○ 沖積平野・小地形等を学びます。 ○ V字谷・谷底平野・扇状地・水無川・天井川等を学びます。 ○ 三角州・三日月湖・自然堤防・氾濫源・縄文海進等を学びます。 ○ 台地・丘陵・河岸段丘等を学びます。 ○ 自然を撮影した写真から、地形や土地利用を読み取ります。 ■ 第2回定期考査	●	●	●	●	
6		技能5 写真の見方—地形— (2) 海岸に見られる小地形 4. そのほかの特徴的な地形 (1) 氷河地形 (2) 乾燥地形 (3) 石灰岩の溶食地形	○ 砂浜海岸・干潟・砂嘴・砂州・陸繋島・潟湖等を学びます。 ○ 離水海岸・海岸平野・海岸段丘等を学びます。 ○ サンゴ礁・裾礁・堡礁・環礁・地球温暖化等を学びます。 ○ 沈水海岸・三角江・リアス海岸・フィヨルド等を学びます。 ○ 山岳氷河・大陸氷河・南極大陸・グリーンランド等を学びます。 ○ U字谷・カール・モレーン・氷河湖等を学びます。 ○ 氷期・間氷期・最終氷期等を学びます。 ○ 砂漠・岩石砂漠・礫砂漠・メサ・ピュート等を学びます。 ○ レス・偏西風・黄砂・ホワンツー高原等を学びます。 ○ 外来河川・オアシス・内陸河川・ワジ等を学びます。 ○ カルスト地形・秋吉台・平尾台・鍾乳洞等を学びます。 ○ ドリーネ・ウバーレ・ポリエ・タワーカルスト等を学びます。 ○ 計曲線・主曲線・補助曲線・尾根・谷等を学びます。 ○ 地形断面図を作成します。	●	●	●	●	

7	技能6 地形図の利用—等高線 技能7 地形図の利用—地形断面図 技能8 地形図の利用—土地利用	○ 地形図で土地利用を判別します。				
	第2節 世界の気候 1. 気候の成り立ち （1）気温と降水 （2）大気大循環と風 （3）陸水と海洋 2. 世界の気候区分 （1）ケッペンの気候区分 技能9 気候区分の判定 技能10 雨温図・ハイサーグラフ 技能11 写真の見方—気候	○ 気象・気候・気候因子・気候要素等を学びます。 ○ 日較差・年較差・海洋性気候・大陸性気候等を学びます。 ○ 気温の通減率・地形性降雨・湿潤・乾燥等を学びます。 ○ 熱帯収束帯・亜熱帯高圧帯・亜寒帯低圧帯等を学びます。 ○ 貿易風・偏西風・極偏東風・恒常風等を学びます。 ○ 季節風・ジェット気流・雨季・乾季等を学びます。 ○ 熱帯低気圧・台風・サイクロン・ハリケーン等を学びます。 ○ 陸水・氷河・地下水等を学びます。 ○ 被圧地下水・自由地下水・宙水等を学びます。 ○ 表層流・暖流・寒流・海洋の大循環・海岸砂漠等を学びます。 ○ 西岸気候・東岸気候等を学びます。 ○ ケッペン・植生・仮想大陸等を学びます。 ○ ケッペンの気候区分の気候記号・判定方法を学びます。 ○ 雨温図とハイサーグラフを作成して、読み方を学びます。 ○ 自然や人々の生活を撮影した写真から、気候を読み取ります。				
年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか						
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技 知
2	8	（2）熱帯の自然と生活 ① 熱帯雨林気候 ② 熱帯モンスーン気候 ③ サバナ気候 （3）乾燥帯の自然と生活 ① 砂漠気候 ② ステップ気候 （4）温帯の自然と生活 ① 地中海性気候 ② 温暖冬季少雨気候 ③ 温暖湿潤気候 ④ 西岸海洋性気候 （5）亜寒帯・寒帯の自然と生活 ① 亜寒帯湿潤気候 ② 亜寒帯冬季少雨気候 ③ ツンドラ気候 ④ 氷雪気候 （6）高地に見られる気候 3. 気候と植生・土壌 4. 変化する気候 第3節 日本の自然と人々の生活 1. 日本の地形 2. 日本の気候	■ 第3回定期考査 ○ 年中高温多雨・スコール・ラトソル・焼畑農業等を学びます。 ○ 年中高温・弱い乾季・モンスーン等を学びます。 ○ 雨季・乾季・サバナ・レグール・テラローシャ等を学びます。 ○ リャノ・カンボ・グランチャコ等を学びます。 ○ 年降水量250mm未満・オアシス・塩性土壌等を学びます。 ○ 年降水量250～700mm・ステップ・サヘル等を学びます。 ○ チェルノーゼム・プレーリー土・栗色土等を学びます。 ○ 夏高温乾燥・テラロッサ・硬葉樹・柑橘類等について学びます。 ○ 夏に多雨・冬に少雨・二期作・常緑広葉樹等について学びます。 ○ 四季の変化明瞭・梅雨前線・褐色森林土・混合林等を学びます。 ○ 夏冷涼で冬温暖・北大西洋海流・偏西風・ブナ等を学びます。 ○ 冬に積雪・タイガ・ポドゾル・春小麦・酪農等を学びます。 ○ 冬に少雨・シベリア高気圧・永久凍土・林業等を学びます。 ○ 地衣類・イヌイット・サーミ・トナカイの遊牧等を学びます。 ○ 南極大陸・グリーンランド・大陸氷河等を学びます。 ○ 高山気候・アンデス山脈・高山都市・スラム等を学びます。 ○ アルパカ・リヤマ・ボンチョ・ヤク等を学びます。 ○ 土壌・成帯土壌・間帯土壌等を学びます。 ○ 温暖化・寒冷化・小氷期・異常気象等を学びます。 ○ エルニーニョ現象・ラニーニャ現象等を学びます。 ○ 都市気候・ヒートアイランド現象等を学びます。			
	9		○ 弧状列島・火山帯・火山フロント・活断層等を学びます。 ○ フォッサマグナ・糸魚川静岡構造線・中央構造線等を学びます。			

重視する評価の観点 CHECK

○△×

10	3. 開発に伴う災害と防災 第4節 環境問題 1. 世界の環境問題 2. さまざまな環境問題 (1) オゾン層破壊 (2) 地球温暖化による影響 (3) 森林破壊 (4) 進行する砂漠化 (5) 大気汚染と酸性雨 3. 日本の環境問題 第2章 資源と産業 第1節 世界の農林水産業 1. 農業の発達と分布 2. 農業の地域区分 (1) 各地に見られる伝統的農業 ① 遊牧 ② 焼畑農業 ③ 粗放的定住農業 ④ 集約的稲作農業 ⑤ 集約的畑作農業 (2) 欧州で発達した商業的農業 ① 混合農業 ② 酪農 ③ 園芸農業 ④ 地中海式農業	○ ノエーン坑家・梅雨別録・百風・やませ・市吉等を学びます。 ○ 土石流・土砂災害・局地的大雨・集中豪雨等を学びます。 ○ 都市型災害・液状化現象・地下調節池等を学びます。 ■ 第4回定期考査 ○ 大気汚染・公害・リサイクル・国連環境計画等を学びます。 ○ オゾン層・オゾンホール・紫外線の増加等を学びます。 ○ ウィーン条約・モントリオール議定書等を学びます。 ○ 温室効果ガス・化石燃料・二酸化炭素等を学びます。 ○ 海面上昇・モルディブ・京都議定書等を学びます。 ○ 生物多様性・マングローブ林・えびの養殖池等を学びます。 ○ アグロフォレストリー・地球サミット等を学びます。 ○ サヘル・過伐採・過耕作・過放牧・NGO等を学びます。 ○ 光化学スモッグ・越境大気汚染・PM2.5等を学びます。 ○ 長距離越境大気汚染防止条約等を学びます。 ○ 水俣病・第二水俣病・イタイイタイ病等を学びます。 ○ 四大公害病・公害対策基本法・環境基本法等を学びます。 ○ 環境庁・環境省・省エネルギー・リサイクル等を学びます。 ○ 自然条件・社会条件・灌漑・栽培限界等を学びます。 ○ 自給的農業・商業的農業・企業的農業・産業革命等を学びます。 ○ 土地生産性・労働生産性・ホイットルセイ等を学びます。 ○ 北極海沿岸のトナカイ・チベット高原のヤク等を学びます。 ○ 中央アジアのラクダや羊・モンゴル高原の馬等を学びます。 ○ キャッサバ・タロイモ・ヤムイモ・バナナ等を学びます。 ○ 東南アジアと東アジアの沖積平野・棚田等を学びます。 ○ 中国北東部のこうりゃん・デカン高原の綿花等を学びます。 ○ 輪作・休閑・二圃式農業・三圃式農業等を学びます。 ○ 穀物・根菜類・飼料作物・家畜飼育等を学びます。 ○ 冷涼な気候・やせた土地・移牧・冷凍船の発明等を学びます。 ○ 近郊農業・輸送園芸・スマートアグリ等を学びます。 ○ 柑橘類・オリーブ・コルクがし・羊や山羊の飼育等を学びます。 ○ アメリカ合衆国南西部・チリ中部等を学びます。	●	●	●	●			
11	12								
年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか									
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	CHECK ○△×	
3	1	世界の食糧問題 	○ 食料不足・飢餓・1日1人あたりカロリー摂取量等を学びます。 ○ 人口増加・紛争などによる難民・フェアトレード等を学びます。 ○ 食品ロス等を学びます。 ○ 食料自給率の低下・食育・地産地消・食の安全等を学びます。	●	●	●	●		
	2	第3部 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然環境と防災 1節 地震・津波と防災 1 地震・津波による災害	①我が国をはじめ世界で見られる自然災害や生徒の生活圏で見られる自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解します。 さまざまな自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめる地理的技能を身に付けます。 ②地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現します。	●	●	●	●		
	3	2 地震・津波の被災地の取り組み 	③自然環境と防災について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養います。						

1 この科目の構成について

教科	地歴公民	科目	歴史総合	単位	2 単位
対象コース	一貫	コース	対象クラス	1 年	1 組
使用教科書	詳述歴史総合（実教出版）				
使用副教材	詳述歴史総合 マイノート 新課程版（実教出版）				

2 この科目の目標・学習内容・学習方法について

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか
国際関係から社会の編成、日常生活の具体的な姿や生産のあり方のなかから、世界と日本の歴史的なつながりを学ぶ。この過程は、「他者」の発見「他者」への共感、「他者」との共生の歴史を学ぶということでもある。このとき、「問い」を立てるという姿勢が大切である。「答え」を学ぶのではなく、歴史に向かって問いかける姿勢を身につけて欲しい。
学習内容：この科目で学習する大まかな内容
○近現代の歴史を「近代化」「大衆化」「グローバル化」という観点から着目し、世界と日本の動きを学ぶ。 ・18～19世紀：近代化をメインに学ぶ ・20世紀前半：大衆化をメインに学ぶ ・20世紀後半～21世紀：グローバル化をメインに学ぶ
学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか
(1) 学校 授業でパワーポイントを用いて説明された歴史用語や頻出重要文章を確実に理解するとともに、歴史の流れを把握することが大切です。板書事項や重要語句を正確にワークノートに記述することが求められます。
(2) 家庭 ワークノートは、教科書に準拠して作成してあります。予習として教科書の太文字を中心に目を通してきて下さい。家庭では地図や年表と照らし合わせることで、より深く近代史を学習することができます。また、テレビや新聞など各種の情報源がありますので、それらを活用することで知識の幅が広がり、深さも増すことでしょう。もし可能であればインターネット等を活用することもよいでしょう。各単元毎に宿題を課すので、必ず解答して提出しましょう。

3 この科目の評価方法について

評価の観点：何を使って評価するのか
(1) 知識・技能 ①定期考査：年5回の定期考査。 ②授業への取り組み：指名されたときの発表内容など。 ③提出物：振り返りシートや課題プリント、テスト直しの内容など。
(2) 思考・判断・表現 ①定期考査：年5回の定期考査。 ②授業への取り組み：指名されたときの発表内容など。 ③提出物：マイノートや振り返りシートの内容など。
(3) 主体的に学習に取り組む態度 ①授業への取り組み：授業態度や指名されたときの発表内容など。 ②提出物：マイノートや振り返りシート、課題プリントやテスト直しの内容など。

4 この科目の学習計画について

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点			CHECK
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主	○△×
	4	13アメリカの発展と分裂 道徳	・領土拡大の過程で、アメリカ合衆国ではどのような問題が生じたのか、独立後のアメリカ合衆国の発展とその過程で起きた南北戦争について考える。 ・ラテンアメリカの独立について考える。	○		○	
		14世界市場の形成	・パクス=ブリタニカの形成と世界の緊密化について考える。	○		○	

		第3章 アジアの変容と日本の近代化 5 15イスラーム世界の改革と再編 16南アジア・東南アジアの改革と再編 17アヘン戦争の衝撃 第4章 帝国主義の時代 6 26帝国主義と世界分割 27帝国主義期の欧米社会 32アジア諸民族の独立運動・立憲革命	7世紀にムハンマドが説いたイスラームは、アラビア半島の統一につながり、征服活動をともしながら世界各地にひろがっていった様子や特徴について考える。 ・アヘン戦争で東アジア諸国はどのような対応をせまられたのか考える。 ・アヘン戦争とインド大反乱について考える。 ・日本の開国とその影響について考える。 ・欧米諸国は、なぜ帝国主義の政策をすすめたのかについて考える。 ・アフリカと太平洋の分割について考える。	○	○				
年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか									
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主	○△×	CHECK	
	7	第2編 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第5章 第一次世界大戦と大衆社会 33緊迫する国際関係 34第一次世界大戦	・第一次世界大戦は、なぜ世界を巻きこむ戦争になったのだろうか。第一次世界大戦の全容や影響について考える。	○	○				
	8	35ロシア革命とシベリア出兵 37ヴェルサイユ体制とワシントン体制	・ソヴィエト政権はなぜ人々から支持されたのだろうか、また革命が成功した背景にあったものは何であるか、ロシア革命の原因や経過について考える。 ・ロシア革命が世界に与えた影響を考える。 ・大戦後の国際秩序はどのような目的で構築されたのだろうか、第一次世界大戦後の国際秩序とヴェルサイユ体制について考える。 ・ワシントン体制について考える。	○	○				
	9	38西アジア・南アジアの民族運動 39東アジア・東南アジアの民族運動 40戦間期の欧米	・第一次世界大戦後、アジア各地で民族運動が活発になったのはなぜか。トルコやインドではあらたにどのような動きがあったかを考える。 ・朝鮮半島と中国の動きについて考える。 ・戦間期のヨーロッパの動き、とくにドイツのヴァイマル共和国について考える。	○	○				
	10	第6章 経済危機と第二次世界大戦 43世界恐慌 44ファシズムの時代 47第二次世界大戦とアジア太平洋戦争	・世界恐慌は各国の経済や人々の生活にどのような影響を与えたのだろうか。 ・世界恐慌と日本への影響について考える。 ・世界恐慌がイギリス・アメリカ・ソ連に与えた影響を考える。 ・ヒトラーのひきいるナチ党は何を主張し、どのようにして政権をにぎったのだろうか。 ・第二次世界大戦のはじまりについて考える。 ・アジア太平洋戦争について考える。	○	○				

道徳

11 50国際連合と戦後世界



・国際連合は設立の目的を十分にはたせてきただろうか。

○ ○

51戦後と占領の始まり
53冷戦の開始

・国際連合の成立と組織の内容について考える。
・冷戦について考える。

○ ○
○ ○

第3編 グローバル化と
私たち

第7章 冷戦と脱植民地化

12 55冷戦対立の推移

56植民地の独立と第三世界
の出現

・旧植民地は、どのように独立をはたしたのか考える。
・植民地の独立について考える。
・第三勢力の台頭について考える。

○ ○
○ ○

57米ソ両陣営の動揺

・強大な軍事力をほこった米ソが、影響力を弱めていったのはなぜか、考える。

○ ○

第8章 多極化する世界

1 59石油危機と世界経済

・石油危機と変動相場制実施、アジアの経済成長について考える。

○ ○

60緊張緩和から冷戦の
終結へ

・緊張の緩和と再燃について考える。

○ ○

2 61地域協力の進展

・ヨーロッパやアジアの経済協力について考える

○ ○

第9章 グローバル化と
現代社会

63冷戦体制の終結

3 64地域紛争と世界経済

・冷戦後の世界、民族の対立を考える。
・グローバル化がすすむなかで、各国はどのような動きをみせたか、考える。

○ ○
○ ○

65グローバルな認識へ

・地域統合の深化やグローバル化への対応について考える。

○ ○



1 この科目の構成について

教科	地歴公民	科目	歴史総合	単位	2 単位
対象コース	進学・総合・美術	コース	対象クラス	1 年	2～7 組
使用教科書	詳述歴史総合（実教出版）				
使用副教材	詳述歴史総合 マイノート 新課程版（実教出版）				

2 この科目の目標・学習内容・学習方法について

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

国際関係から社会の編成、日常生活の具体的な姿や生産のあり方のなかから、世界と日本の歴史的なつながりを学ぶ。この過程は、「他者」の発見「他者」への共感、「他者」との共生の歴史を学ぶということでもある。このとき、「問い」を立てるという姿勢が大切である。「答え」を学ぶのではなく、歴史に向かって問いかける姿勢を身につけて欲しい。

学習内容：この科目で学習する大まかな内容

○近現代の歴史を「近代化」「大衆化」「グローバル化」という観点から着目し、世界と日本の動きを学ぶ。

- ・ 18～19世紀：近代化をメインに学ぶ
- ・ 20世紀前半：大衆化をメインに学ぶ
- ・ 20世紀後半～21世紀：グローバル化をメインに学ぶ

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1) 学校

授業でパワーポイントを用いて説明された歴史用語や頻出重要文章を確実に理解するとともに、歴史の流れを把握することが大切です。板書事項や重要語句を正確にワークノートに記述することが求められます。

(2) 家庭

ワークノートは、教科書に準拠して作成してあります。予習として教科書の太文字を中心に目を通してきて下さい。家庭では地図や年表と照らし合わせることで、より深く近代史を学習することができます。また、テレビや新聞など各種の情報源がありますので、それらを活用することで知識の幅が広がり、深さも増すことでしょう。もし可能であればインターネット等を活用することもよいでしょう。各単元毎に宿題を課すので、必ず解答して提出しましょう。

3 この科目の評価方法について

評価の観点：何を使って評価するのか

(1) 知識・技能

- ①定期考査：年5回の定期考査。
- ②授業への取り組み：指名されたときの発表内容など。
- ③提出物：振り返りシートや課題プリント、テスト直しの内容など。

(2) 思考・判断・表現

- ①定期考査：年5回の定期考査。
- ②授業への取り組み：指名されたときの発表内容など。
- ③提出物：マイノートや振り返りシートの内容など。

(3) 主体的に学習に取り組む態度

- ①授業への取り組み：授業態度や指名されたときの発表内容など。
- ②提出物：マイノートや振り返りシート、課題プリントやテスト直しの内容など。

4 この科目の学習計画について

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点			CHECK
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主	○△×
1	4	世界史のなかの宗教	・世界三大宗教について学ぶ	○			
		第1編 近代化と私たち 第1章 近代化への胎動 イントロダクション 17世紀以前のアジアの繁栄、 ヨーロッパの海外進出 1ヨーロッパの海外進出と 市民社会	・アジア諸帝国と海域世界の繁栄について考える ・ヨーロッパの海外進出について考える。 ・中世ヨーロッパの秩序が崩れていくなかで、イ タリア戦争、ローマ教皇からはなれる動きを示し た宗教改革、三十年戦争などをへて、主権国家体 制が確立されたとされる。17世紀以前のヨーロッ パの「国家」について考える。	○	○		
		第2章 欧米の市民革命と 国民国家の形成	・主権国家の成立過程について考える。				
5	6	イギリス産業革命	・イギリス産業革命やアメリカ独立戦争は、	○	○	○	
	7	アメリカ独立革命	どのように始まり、展開したのか考える。	○	○		
		8フランス革命とナポレオン	・フランス革命とウィーン体制のもとで、政 治体制はどのように変化していったのか考える。	○		○	
		9ウィーン体制	・ナポレオン戦争とウィーン体制について考 える。	○	○		
		1019世紀のイギリスとフラ ンス		○	○		
		11イタリア・ドイツの統一	・19世紀後半のイギリス・フランス・イタリ ア・ドイツでは、どのような政治上の動きが みられただろうか。	○	○	○	
		12東方問題と19世紀の ロシア	・東方問題を通じて、ロシアやオスマン帝国 にはどのような変化が生じたか考える。 ・オスマン帝国の衰退過程について考える。 ・ロシアの改革とその問題点について考える。	○	○		
6	13	アメリカの発展と分裂	・領土拡大の過程で、アメリカ合衆国ではど のような問題が生じたのか、独立後のアメリ カ合衆国の発展とその過程で起きた南北戦争 について考える。 ・ラテンアメリカの独立について考える。	○		○	
		14世界市場の形成	・パクス=ブリタニカの形成と世界の緊密化 について考える。	○		○	
		第3章 アジアの変容と 日本の近代化					
7	15	イスラーム世界の改革と 再編	7世紀にムハンマドが説いたイスラームは、 アラビア半島の統一につながり、征服活動を ともないながら世界各地にひろがっていった 様子や特徴について考える。	○	○		
	16	南アジア・東南アジアの 改革と再編		○		○	
	17	アヘン戦争の衝撃	・アヘン戦争で東アジア諸国はどのような対 応をせまられたのか考える。 ・アヘン戦争とインド大反乱について考える。 ・日本の開国とその影響について考える。	○		○	

	8	第4章 帝国主義の時代 26帝国主義と世界分割 27帝国主義期の欧米社会 32アジア諸民族の独立運動 ・立憲革命	・欧米諸国は、なぜ帝国主義の政策をすすめたのかについて考える。 ・アフリカと太平洋の分割について考える。	○ ○ ○	○ ○ ○		
年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点			CHECK
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主	○△×
	9	第2編 国際秩序の変化や 大衆化と私たち 第5章 第一次世界大戦と 大衆社会 33緊迫する国際関係 34第一次世界大戦	・第一次世界大戦は、なぜ世界を巻きこむ戦争になったのだろうか。第一次世界大戦の全容や影響について考える。	○ ○	○ ○		○
	10	35ロシア革命とシベリア 出兵 37ヴェルサイユ体制と ワシントン体制	・ソヴィエト政権はなぜ人々から支持されたのだろうか、また革命が成功した背景にあったものは何であるか、ロシア革命の原因や経過について考える。 ・ロシア革命が世界に与えた影響を考える。 ・大戦後の国際秩序はどのような目的で構築されたのだろうか、第一次世界大戦後の国際秩序とヴェルサイユ体制について考える。 ・ワシントン体制について考える。	○ ○	○ ○		
	11	38西アジア・南アジアの 民族運動 39東アジア・東南アジアの 民族運動	・第一次世界大戦後、アジア各地で民族運動が活発になったのはなぜか。トルコやインドではあらたにどのような動きがあったかを考える。 ・朝鮮半島と中国の動きについて考える。	○ ○		○ ○	
		40戦間期の欧米	・戦間期のヨーロッパの動き、とくにドイツのヴァイマル共和国について考える。	○		○	
		第6章 経済危機と第二次 世界大戦	・世界恐慌は各国の経済や人々の生活にどのような影響を与えたのだろうか。	○	○		
	12	43世界恐慌	・世界恐慌と日本への影響について考える。 ・世界恐慌がイギリス・アメリカ・ソ連に与えた影響を考える。	○	○		
		44ファシズムの時代	・ヒトラーのひきいるナチ党は何を主張し、どのようにして政権をにぎったのだろうか。	○		○	
		47第二次世界大戦とアジア 太平洋戦争	・第二次世界大戦のはじまりについて考える。 ・アジア太平洋戦争について考える。	○		○	
							
		50国際連合と戦後世界 	・国際連合は設立の目的を十分にはたせてきただろうか。	○	○		
		51戦後と占領の始まり 53冷戦の開始	・国際連合の成立と組織の内容について考える。 ・冷戦について考える。	○ ○		○ ○	

	第3編 グローバル化と 私たち					
1	第7章 冷戦と脱植民地化 55冷戦対立の推移 56植民地の独立と第三世界 の出現	・旧植民地は、どのように独立をはたしたの か考える。 ・植民地の独立について考える。 ・第三勢力の台頭について考える。	○ ○	○	○	
2	57米ソ両陣営の動揺	・強大な軍事力をほこった米ソが、影響力を 弱めていったのはなぜか、考える。	○		○	
	第8章 多極化する世界 59石油危機と世界経済	・石油危機と変動相場制実施、アジアの経済成 長について考える。	○		○	
3	60緊張緩和から冷戦の 終結へ 61地域協力の進展	・緊張の緩和と再燃について考える。 ・ヨーロッパやアジアの経済協力について考える	○ ○	○	○	
	第9章 グローバル化と 現代社会					
	63冷戦体制の終結	・冷戦後の世界、民族の対立を考える。	○	○		
	64地域紛争と世界経済	・グローバル化がすすむなかで、各国はどのよ うな動きをみせたか、考える。	○		○	
	65グローバルな認識へ	・地域統合の深化やグローバル化への対応に ついて考える。	○		○	